

ブラックバイトは 若者を使い潰す

<キャリア教育>を再考する

「若者の使い潰しの連鎖が、この国を覆っている」と今野晴貴さんは言う。学生たちが、経済的理由等によるアルバイトで社会人になる前に使い潰しにされ、学ぶ機会を逸し、過重労働により精神の健康を病んでしまったとしたら、一体誰がこの国の未来を支えるのだろうか。ブラックバイトの問題は、労働政策を超えた、教育政策の転換も不可欠にしている。参加者で考え学び合いたい。

～これまで高校教育では「アルバイトは原則禁止」とすることが一般的であったが、教員は学生たちの経済的状況や日本の労働状況に鑑みて、彼らがアルバイトをする前提に改めて、労働教育やトラブル解決のサポートに注力するべきだ。もちろん、大学でもよりいっそうの労働教育の進展が必要である。労働者の人生には、企業の業績と共に成長する可能性と、それがかなわず、自らの契約関係を意識し「立場を守る」必要に迫られる可能性が、常に存在する。今日の「キャリア教育」では、前者を暗黙の、絶対の前提においているように見えてならない。ブラック企業、ブラックバイトは、そうした学校教育の「甘さ」につけ込み、「使い潰し」を行ってきたのではなかっただろうか。～「ブラックバイトー学生が危ないー」(岩波新書)より

2016

11/26 土

開場 13:30 講演開始 14:00

会場：仙台市市民活動サポートセンター、地階市民活動シアター。(地下鉄南北線広瀬通駅西5番出口すぐ)

参加費：200円

講演者：今野晴貴さん

1983年宮城県生まれ。NPO法人POSSE代表。ブラック企業対策プロジェクト共同代表。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程在籍。専門は労働社会学、社会政策。著書に『ブラックバイト学生が危ない』(岩波新書 2016年4月)『ブラック企業ー日本を食いつぶす妖怪』(文春新書・第13回大佛次郎論壇賞受賞)等多数。